

2026年度
3年生 後期シラバス
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人
日翔学園

開成情報看護専門学校

<シラバス>

科目区分		基礎分野	科目名	情報セキュリティと PC活用	単位数	1単位 (30時間)
開講時期		3年次後期	担当教員	中尾 友紀	実務経験の ある教員	
学習目的		1. プレゼンテーションができるためのスライド作成の技術及び発表の能力を身に付ける。 2. 情報リテラシーに関連する知識を習得し、ITに強い看護師になる。				
学習目標		ケースレポート発表会に備え、研究発表に対応するためのプレゼンテーションの方法を修得する。				
授 業 計 画	1	オリエンテーション、 ケースレポート準備 PowerPoint資料作成の基礎、PowerPointの機能				
	2	ケースレポート準備 PowerPoint資料作成の基礎、Windowsの機能				
	3	2章 PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成				
	4	2章 PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成				
	5	2章 PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成				
	6	3章 プレゼンテーションのテクニック				
	7	3章 プレゼンテーションのテクニック				
	8	1章 プレゼンテーションとは				
	9	情報倫理とセキュリティ・AIの利活用				
	10	情報倫理とセキュリティ パスワードの管理と個人情報				
	11	情報倫理とセキュリティ ネット社会での生活				
	12	情報倫理とセキュリティ 情報サービスとセキュリティ				
	13	情報倫理とセキュリティ 個人情報と知的財産				
	14	授業の総括・振り返り				
	15	確認試験				
授業方法		講義				
テキスト・ 参考文献		30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019(実務出版) 追加資料は別途授業中に配布する。				
評価方法		確認試験、授業態度				
履修上の注 意事項		GoogleClassroomを使用します。Googleへのログインをできるようにしておいてください。				

<シラバス>

科目区分		基礎分野	科目名	研究論文の技法Ⅰ	単位数	1単位 (15時間)
開講時期		3年次後期	担当教員	武政 あゆみ	実務経験のある教員	○
学習目的		研究の意義や基本的な知識を理解できる。				
学習目標		1. 研究について基本的な知識と記述方法について理解する。 2. 研究における倫理について理解する。 3. ケーススタディの基礎知識と記述方法を理解する。 4. テーマ周辺の文献を検索できる。				
授 業 計 画	1	研究とはなにか、看護研究をする意義、看護研究の歴史				
	2	研究のプロセス、リサーチクエストの決定看護研究における倫理				
	3	文献の探し方、文献検討の仕方				
	4	研究デザインと研究手法				
	5	研究の進め方とポイント、発表と論文				
	6	ケーススタディとは、ケースステディの記述方法				
	7	ケースレポート作成に向けた準備・計画書作成				
	8	ケースレポート作成に向けた準備・計画書作成				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		編早川和生「JNNスペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方」、医学書院 監修高橋百合子「看護学生のためのケーススタディ」、メジカルフレンド社 講師が用意する資料				
評価方法		授業態度、課題の内容と提出状況、ケースレポート計画書				
履修上の注意事項						

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	研究論文の技法Ⅱ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	武政あゆみ (他 専任教員)	実務経験のある教員	○
学習目的	実習中に受け持った患者のケースをまとめることで看護の状況を振り返り、自身が実践した看護の意味を考え、今後の看護実践の示唆を得ることができる。				
学習目標	1. ケースレポート本文、抄録を作成でき、このプロセスの必要性について説明できる。 2. 他者にわかりやすく文章をまとめることができる。 3. ケースレポートの内容を要約し、要点をまとめて発表用スライドを作成できる。 4. 発表会の企画・運営に主体的に参加し、他者の発表に対しても建設的な意見を述べることができる。 5. ケースレポート記述の過程で得られた看護観を今後の看護実践に活かす認識が持てる。				
授 業 計 画	1	文献検索			
	2	ケースレポート本文作成			
	3	ケースレポート本文作成			
	4	ケースレポート本文作成			
	5	ケースレポート本文作成			
	6	ケースレポート本文作成			
	7	ケースレポート本文作成			
	8	ケースレポート本文作成			
	9	ケースレポート本文作成			
	10	ケースレポート抄録作成			
	11	ケースレポート抄録作成			
	12	ケースレポートパワーポイント作成			
	13	ケースレポートパワーポイント作成			
	14	ケースレポートパワーポイント作成			
	15	ケースレポート発表会に向けた準備			
	16	ケースレポート発表会に向けた準備			
授業方法	個人ワーク、ゼミナール形式				
テキスト・参考文献	監修高橋百合子「看護学生のためのケーススタディ」、メジカルフレンド社 各自テーマに沿った文献、著書				
評価方法	授業態度、ケースレポート作成への積極的取り組み、ケースレポート本文・抄録の内容、スライド内容、発表会の企画・運営への参加状況				
履修上の注意事項	1. 個人によって作成状況が異なると思われますが期日までに全てを仕上げる必要があります。 ・ケースレポートの添削等、教員に指導をもらう場合には各自がアポイントを取ってください。 ・担当教員には進捗状況を伝えるようしてください。 2. 発表・企画・運営はクラス全員で協力して実施します。				

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	社会人基礎力	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的	「社会人基礎力」は、職場や地域社会で多様な人々と協力して働くために必要な基礎力である。社会人基礎力に必要な3つの能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の必要性を学び、社会に出る前に社会人基礎力の基礎を身につけることを目的とする。				
学習目標	1. 社会人基礎力とは何か理解できる。 2. 社会人として求められるマナーについて理解し、実践できる。 3. 自己分析をとおして、自己理解・他者理解の必要性について理解し、自己の課題を明確にできる。				
授 業 計 画	1	社会人基礎力とは			
	2	社会人(医療職)として必要なマナー			
	3	チームで協働するためのコミュニケーション			
	4	自己理解と他者理解の必要性			
	5	リフレクションの基本と実践			
	6	リフレクションの基本と実践			
	7	自己分析			
	8	まとめ			
授業方法	講義、演習(グループワーク)				
テキスト・参考文献	講師が準備する資料				
評価方法	出席状況、授業態度、授業態度および課題、レポート評価				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	多職種連携論	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	松本佳代/武政あゆみ	実務経験のある教員	○
学習目的	専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識を修得し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、他校に在籍する学生(リハビリ職)とのグループワーク演習を通じ、ディスカッション能力を身につけるとともに、専門性について考察できる。				
学習目標	1.多職種と連携・協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。 2.多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。 3.多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。 4.多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して、他学科の学生と意見交換ができる。 5.グループワーク演習を円滑に進めるために協力することができる。 6.グループ演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。 7.グループ演習時の自分自身をリフレクションし、考えや価値観を説明できる。。				
授業計画	1	オリエンテーション(授業の進め方、課題の提出方法について理解できる) 多職種連携の必要性(多職種連携が求められる背景とその重要性について理解する)			
	2	多職種連携に関わる各職種の役割 (病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について知る)			
	3	多職種連携に必要な技術1 (多職種で行うディスカッションの方法と円滑に進めていくためのファシリテーションファシリテーターについて理解する)			
	4	多職種連携合同演習	多職種3校による合同演習を実施 1.多職種連携に必要な技術を用いて円滑な議論の進め方を学ぶ 2.各職種の視点で課題を整理し、伝えることができる 3.抽出できた課題の解決のための目標や解決策を共有し、チームで統一したプロセスを思考する必要性について理解する		
	5	多職種連携合同演習			
	6	多職種連携合同演習			
	7	多職種連携合同演習			
	8	振り返り、まとめ			
授業方法	講義・演習 ※演習授業は他学校の多職種と実施します。詳細は、授業で説明します。				
テキスト・参考文献	なし 講師が準備する資料				
評価方法	出席、講義及び演習の参加状況、課題レポート				
履修上の注意事項	①各回で学んだことを復習すること ②演習授業では、積極的に参加し、多職種の考え方や役割を理解すること				

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	公衆衛生	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	大井 美樹	実務経験のある教員	—
学習目的	公衆衛生の意義と重要性や、わが国の健康水準の現況および疾病予防や健康増進のための方策について学び公衆衛生学的な考え方を身につける。				
学習目標	①健康・疾病・障害と生活の関わりを基本的な概念を理解する。 ②生活環境が健康に及ぼす影響について述べることができる。 ③地域住民の健康を保持増進するための保健活動を理解する。 ④自然科学的な研究方法論である疫学の考え方を習得する。				
授業計画	1	公衆衛生とは何か。公衆衛生の歴史			
	2	公衆衛生からみる人間と環境—人間の健康と自然・生活環境—			
	3	衛生統計と公衆衛生—グループワーク—			
	4	衛生統計と公衆衛生—グループワーク—			
	5	グループワーク発表			
	6	疫学とは 感染症と予防			
	7	地域保健・産業保健・環境保健			
	8	まとめ、試験			
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	①国民衛生の動向：厚生統計協会 ②系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生（医学書院）				
評価方法	出席状況、授業態度（GWの参加状況）、課題、筆記試験				
履修上の注意事項	健康・環境・健康に関する社会の状況について関心をもつこと。				

<シラバス>

科目区分		専門分野	科目名	災害看護	単位数	1単位 (15時間)
開講時期		3年次後期	担当教員	伊勢田 純子	実務経験のある教員	—
学習目的		災害の特徴、災害医療および看護の基本を理解するとともに、災害各期の看護に必要な知識、急性期の救護活動に必要な基本的救護技術を習得し、実践に活かすことができる能力を養う。				
学習目標		1. 災害医療・災害看護の概念を理解できる。 2. 災害各期の看護活動を理解できる。 3. 災害時の応急処置の実際を理解できる。				
授 業 計 画	1	実際に起こった災害と医療・看護活動				
	2	災害の定義と災害看護の役割				
	3	災害サイクルとサイクル別看護1				
	4	災害サイクルとサイクル別看護2				
	5	災害の種類・災害時期別健康問題1				
	6	災害の種類・災害時期別健康問題2				
	7	災害医療				
	8	まとめ、試験				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学(医学書院)				
評価方法		出席状況、授業参加状況、試験				
履修上の注意事項						

<シラバス>

科目区分		専門分野	科目名	看護管理	単位数	1単位 (15時間)
開講時期		3年次後期	担当教員	戸田 かおり	実務経験のある教員	—
学習目的		1. 看護専門職として看護実践をする責任を理解し、計画、組織化、支持、調整、統制を行う基礎的なマネジメント能力を養う。また、チームや組織、システムを動かしていくためのマネジメント、リーダーシップの必要性を理解する。 2. 病院経営の基盤となる財政を理解する。 3. 発展途上国での看護活動の実践者から、医療・保健に影響を与えているさまざまな要因や実情を知り、社会科学、人間科学的な視点も踏まえ看護の役割について理解する。				
学習目標		1. 看護管理の目的や看護におけるマネジメントについて理解できる 2. 看護師のキャリア開発について理解する。 3. 財政的視点を理解することで、コスト意識をもった看護実践の必要性を理解する。 4. 医療・看護を経済的視点で考えることができる				
授業計画	1	看護管理の基礎、目的(管理の変遷、手法について理解する)				
	2	看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメント				
	3	マネジメントに必要な知識と技術(組織、集団とは)				
	4	マネジメントに必要な知識と技術(リーダーシップ、メンバーシップ)				
	5	看護を取り巻く諸制度				
	6	医療経済と看護管理-病院の機能・看護行為と経済				
	7	医療経済と看護管理-日本の財政事情と社会保障サービスの質				
	8	まとめ、試験				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野 看護管理(医学書院)				
評価方法		出席状況、授業参加状況、試験				
履修上の注意事項						

<シラバス>

科目区分		専門分野	科目名	学びの統合 I	単位数	1単位 (30時間)
開講時期		3年次後期	担当教員	大沢 たか子 (他専任教員)	実務経験の ある教員	○
学習目的		卒業時に求められる臨床判断と適切な看護援助を事例をもとに学習し、総合的な看護技術能力を養う。				
学習目標		1. 卒業時に最小限度の必要な各技術の根拠を明確にでき、技術を実践することができる。 2. 事例をもとにして、医療現場に近い状況で学習し、必要な看護を実践できる。				
授 業 計 画	1	基礎看護学	事例に基づいた看護実践演習	戸梶・水口		
	2	基礎看護学				
	3	基礎看護学				
	4	基礎看護学				
	5	基礎看護学				
	6	急性期看護学	事例に基づいた看護実践演習	小笠原・大沢		
	7	急性期看護学				
	8	急性期看護学				
	9	急性期看護学				
	10	急性期看護学				
	11	慢性期看護学	事例に基づいた看護実践演習	武政・山本		
	12	慢性期看護学				
	13	慢性期看護学				
	14	慢性期看護学				
	15	慢性期看護学				
授業方法		演習				
テキスト・参考文献		教員が用意した事例と課題				
評価方法		出席状況、技術試験参加状況、課題レポート 各領域におけるOSCE(objective structured clinical examination:客観的臨床能力試験)				
履修上の注意事項		評価は、事前の学習状況、演習における基礎技術(OSCE)、主体的に参加できているかなど態度も含め評価します。				

<シラバス>

科目区分		専門分野	科目名	学びの統合Ⅱ	単位数	3単位 (90時間)
開講時期		3年次後期	担当教員	松本佳代 (他専任教員)	実務経験の ある教員	○
学習目的		既習の学習で得られた知識の習得状況を確認し、知識不足の分野の再学習を行う。また、基礎知識や技術を科学的根拠のもとに思考して、必要な看護を導き出すことができる能力を養う。				
学習目標		1. 3年間で学んだ専門基礎分野、専門分野の基礎知識・技術の理解度を試験形式で確認する。 2. 理解不足の分野の基礎知識を習得し、科学的根拠のが思考できる。 3. クリティカルシンキングから必要な看護を考えることができる。				
授 業 計 画	1	基礎知識・技術習得状況確認試験及び補習				
	45					
授業方法		専門基礎分野および専門分野の既習内容の理解度確認のため試験を実施 試験結果から不得意な分野や理解不足の分野について補習実施				
テキスト・参考文献		教員が用意する資料				
評価方法		出席状況、授業態度、課題学習状況、筆記試験				
履修上の注意事項						

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅲ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	地域で暮らすあらゆる発達段階の人々の生活や健康上のニーズ及び個性を理解し、対象者の健康の維持及びQOLの向上を目指した生活能力の拡大、自立に向けての支援を学ぶ。 また、地域の現状や対象者の多様な生活ニーズに基づき、多職種連携における看護の役割を探求するとともに、必要な看護を実践するための能力と態度を養う。				
学習目標	1. 地域で暮らすあらゆる発達段階の人の個性を理解し、尊重した態度で関わる。 2. 地域で暮らすあらゆる発達段階の人の健康維持や自立に向けた活動の実践を学ぶ。 3. 施設における多職種の役割・機能と連携・協働及び地域との連携及び地域に根差した取り組みについて理解する。				
授業計画	【実習内容・実習方法】 <実習時間 1単位 30時間 4日間> 学内実習 事前学内(0.5日) オリエンテーション、既習の学習の復習とまとめ、自己の目標の明確化 学内事後(0.5日) 3日間の実習を振り返り、学びと気づきについて発表。発表内容について、意見交換する。 住民が安心して暮らすことができる環境や地域における看護師の役割について考察する。 実習内容・留意点 1. 地域で暮らすあらゆる発達段階にある対象の個性を理解する。 2. 対象者の健康上・生活上の課題をとらえ、必要な支援について理解する。 3. 施設の特徴・機能・役割を知る。 4. 地域における多職種連携・協働の実践と各専門職の役割や活動内容を知る。 5. 対象者の健康維持や自立に向けた活動の実践を知る。 6. 実習要綱に基づいて目的・目標が達成できるよう計画的に実習を行う。 7. 実習最終日は、実習を振り返り、実習内容、学びや気づきについて発表する。				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	地域・在宅看護論、社会福祉論、関係法規				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況など総合的に評価				
実習施設	社会福祉法人昭和会 昭光園 社会福祉法人昭和会 児童発達支援センターしんほんまち 社会福祉法人ぶらうらんど 児童発達支援センターぶらうらんどkouminkanひだか 社会福祉法人土佐希望の家 医療福祉センター				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	統合実習	単位数	2単位 (90時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	統合実習は、これまで主として学んできた対象別看護や領域横断的科目の知識・技術を統合し、応用的実践に活用できる基礎能力を養うことをねらいとする。患者・家族・関連職種で構成される医療チームおよび看護チームの一員として、連携しながら行われる看護実践やシャドーイングを通して、総合的な看護実践能力を培うとともに、看護の本質を探究する。また、様々な職種とその役割を知り、看護の役割と責務について学ぶ。				
学習目標	1. 受持ち患者への優先順位を考慮した看護を実践するとともに、看護師の複数患者への看護を見学・省察し、臨床の場における適切な状況判断力を養う。 2. 看護チームの一員であることを自覚し、自らの判断・行動に対する責任感を養う。 3. 医療チームにおける看護職の役割を理解し、基礎的なマネジメント能力を養う。 4. 自己の学習課題を明確にするとともに、自己研鑽する能力を養う。				
授業計画	1グループ4名から6名にて編成する。 臨地実習7日間、学内実習2日間で構成。 [方法] ①受け持ち患者の全体像をとらえ、優先順位をつけた看護を実践する。 ②看護管理者、チームリーダーの業務を見学し、看護管理について理解する。 ③看護師の業務を見学し、複数患者への対応方法や多重課題に対する優先順位のつけ方など、臨床で実際に行なわれている看護を理解する。 ④院内で横断的に活動している委員会や入退院支援、カンファレンスなどに参加し、多職種連携・協働の実際を理解する。 ⑤7日間の実習の成果や学びを簡潔にまとめ、プレゼンテーションを通して他者に伝える。 [事前準備] ①これまでの臨地実習を振り返り、自己の課題を踏まえた統合実習で達成したい目標を明確にして実習に臨む。 ②各実習施設の概要、役割、機能や看護管理、チーム医療、医療安全などの学習をしておく。				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献					
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポート、出席状況、プレゼンテーション内容、自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院 高知県立あき総合病院 土佐市立土佐市民病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院				